

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年4月10日現在

機関番号：11601

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22531008

研究課題名（和文） 子どもの生活改善を目指した教材の開発—「健康生活ナビ」の検討—

研究課題名（英文） Development of teaching materials for the aim to improve the lives of children—Study of healthy life navigation—

研究代表者

浜島 京子 (HAMAJIMA KYOKO)

福島大学・人間発達文化学類・教授

研究者番号：20125785

研究成果の概要（和文）：小学校児童用の健康生活ナビを作成するため、1年目は小学校養護教諭を対象に調査を実施するとともに台湾の小学校における家庭生活関連学習内容を精査した。2年目は前年度の調査内容等をふまえて試作本(低学年用)を作成、3年目は養護教諭と共に試作本の内容を再検討し、それをふまえて完成本(低学年用)を作成した。この完成本は2013年度に健学社より出版の予定である。

研究成果の概要（英文）：In order to create healthy living Navi for elementary school grade1-2, the first year, a survey was conducted the school nurses, and also was investigated the learning content of elementary school in Taiwan. Based on their survey results, the second year, a prototype book was created, and the third year we have created a book completed.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	400,000	120,000	520,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
総計	1,400,000	420,000	1,820,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：教材開発、健康生活、小学校低学年

1. 研究開始当初の背景

子ども達の様々な生活問題が浮上している中、子ども自身が家庭生活において主体的に健康な生活のあり方を考え、実践できるための学習が必要である。しかし、小学校において関連の学習は、保健が3年生以降、家庭科は高学年からの実施となっている。筆者は、従来台湾の小学校における家庭生活関連学習について検討してきたが、台湾では小学校低学年から家庭生活及び健康な生活について考えさせる学習が充実している。そこで、我が国においてほとんど学習の機会がない小学校低学年の生活改善を図るためのワークシート付き学習書の検討が必要と考えた。

2. 研究の目的

研究の最終目的は、健康な生活に関する学習の機会がほとんどない小学校低学年における「健康生活ナビ」を作成することである。

そのために、小学校の養護教諭を対象に健康教育に対する実践状況や意識等に関する調査の実施、健康教育に関する公開授業研究会、シンポジウム、及び学会研究発表会への参加・資料収集、生活科と保健の内容の調査及び台湾の小学校の新課程綱要における家庭生活関連学習内容の検討を行う。それらをふまえて、子ども自身が生活改善を図ることができるためのワークシート付き学習書—「健康生活ナビ」—を検討し、完成させる

ことを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 養護教諭対象の調査…福島県内 250 校の小学校に勤務する養護教諭を対象に健康教育に対する質問紙調査を郵送法により実施した (2010 年 7 月～10 月末)。有効回収数 85 校 (有効回収率 34%)

(2) 健康教育に関する公開授業研究会、シンポジウム、学会研究発表会での資料収集

(3) 小学校低学年の生活科及び中学年における「新しい保健」の指導計画資料の調査

(4) 台湾の 2003 年版「課程綱要」及び教科書記載の家庭生活関連学習内容の調査

(5) 小学校低学年用の「健康生活ナビ」の内容及び構成等の検討・作成

4. 研究成果

(1) 福島県内小学校の養護教諭を対象とした健康教育の実施状況等に関する調査

2010 年 7 月～10 月末にかけて県内 250 校の養護教諭を対象に、健康教育の実施内容、子どもの生活実態、実施上必要な教材等について自由記述を中心とした調査を実施した

(85 校から回答)。その結果、実施内容は「歯科検診・歯磨き指導」「生活リズム」「飲酒・喫煙」「性教育」「衛生・清潔」「食育・栄養指導」「その他」の 7 種類に分類された。必要とする教材内容として、「性教育」「食育」「睡眠」が多く挙げられたが、子どもの生活実態に関わって就寝時刻の遅さが多く指摘されていた。これらより、健康生活ナビ作成にあたり家庭生活の在り方を中心に据えることの有効性が捉えられた。

(2) 「健康教育」に関する公開授業研究会等への参加・資料収集

関東の小学校 3 校 (杉並区立桃井第一小、八千代市立八千代台東第二小、横浜市立宮谷小) の公開研究会に参加し (2010 年 11～12 月)、1 校 (札幌市立南の沢小) からは資料を取り寄せた。その結果、「健康教育」の内容はいずれも「食」「からだ」「いのち又は健康」で構成されていた。従来に比べ、「食」や「いのち」の学習が強化されていることが特徴として見いだされたが、毎日の家庭生活の在り方を見つめ直すという内容の取り上げ方は弱く、この点の補強が必要であると考えられた。

(3) 小学校低学年の生活科の調査

・小学校「生活科」1 年の内容における家庭や家族の内容に関わって、教科書 (東京書籍) には以下の内容が取り上げられていた。「じぶんのいちにちをふりかえろう」「いえのひとといっしょにしよう」「じぶんでできることをしよう」「ありがとうをとどけよう」。しかし、これらが実際にどのくらい学習されているのかが課題になると考えられた。

(4) 台湾の 2003 年版「課程綱要」及び教科書

に記載された家庭生活関連学習内容の調査

台湾では、小・中学校 9 年間を通じた教育課程が作られているが、特に低学年の「生活」課程、「健康と体育」学習領域、「総合活動」学習領域を中心に家庭生活関連学習が設定されていた。小学校低学年においては、衣生活、食生活、住生活、家族・人間関係、生命・成長・発達等に関わる実践的内容が盛り込まれていた。

(5) 小学校低学年用の「健康生活ナビ」の内容及び構成等の検討・作成

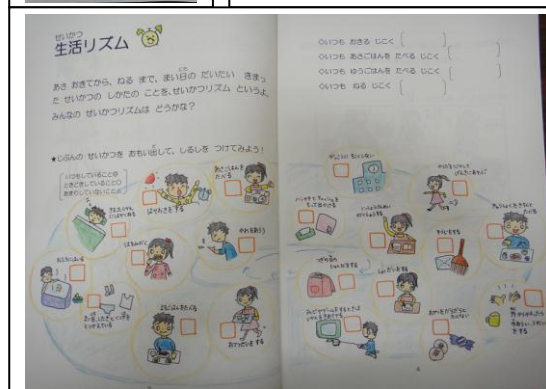
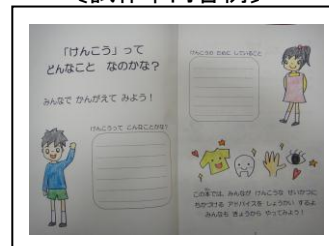
◆試作本作成…上記の種々の調査結果をふまえ、2011 年度には、内容構成の柱を検討するとともに試作本—「『けんこう』なせいかつ」を作成した。内容構成は、「『けんこう』ってどんなことなのかな?」(2 頁) に始まり「生活リズム」(6 頁)、「すいみん」(6 頁)、「歯」(4 頁)、「手あらい」(6 頁)、「いふくとからだ」(6 頁)、「目」(6 頁)、「よりよいせいちょうへ (しょくじ、うんどう、きゅうよう・すいみん)」(2 頁) で構成した (全 38 頁)。具体的内容は、自分の実態を書き込む欄、教材本に示された問題のある子どもの実態を見てアドバイスを書く欄、一週間のめあてや目標を書き、それを振り返って反省点を記入する欄等を設けた。また、なぜ、はやねはやおきが必要なのか、むしばになるのはなぜなのか、正しい歯のみがきかた、あらっていない手はどうなっているのか、じょうずな手のあらいかた、いふくのよごとせいけつの必要性、へやの明るさ、目の健康、目のたいそう等、低学年でも理解できる科学的知識や正しい方法なども掲載した。

(試作本の一部は下記参照)

〔試作本表紙〕



〔試作本内容例〕



◆完成本…2011 年度に作成した試作本の内容について、養護教諭（福島大学附属幼稚園）の指導助言をもらいながら、2012 年度には試作本の見直しを行い、完成本の作成を目指した。なお、その際、文部科学省の見解として提示された「保健の分野における主な意見」（http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/022/siryu/06082912/003.htm）の特に下記内容を重要視して見直しを行った。

○生活習慣の確立は、小学校低学年から確立する方が効果の面から考えると一番いいと思う。ぜひ低学年から保健学習を始める必要があるのではないかな。

○食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があることについては、現行では小学校3年生となっているが、子ども達は少し違ってきている。低学年で、この内容の授業を行い、1年生から保健の授業をすることの議論をして欲しい。

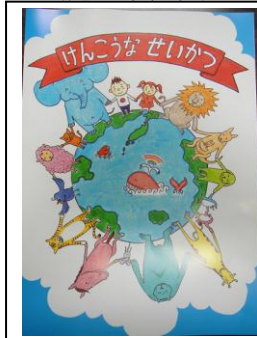
○子ども達の生活習慣の乱れは1年生から見られる。生活科などでやっているとは思いますが、保健としてやっているわけではないので、1年生から健康に関する学習が必要と考える。

上記を確認した上で、全体構成を「きそく正しいせいかつ」「しょくじ」「歯・目のけんこう」「うんどう・せいけつ」「いのちのたいせつさ」「あんぜんなせいかつ」とし、最後に総合的に生活全体を見つめ直す「よりよいせいちょうのために」を設定した。試作本かた見直したことは、「生活リズム」を「きそく正しいせいかつ」とし、排泄に関する内容も加えた、「食事に関して新たに項をおこして設定した」、「清潔について運動と関連させて取りあげた」、「命の大切さの項をおこした」、「体の安全に関する項をおこしたことなどである。また、1年生と2年生のそれぞれに相応しい内容を提示するため、学年別に内容を設定した。これらにより、完成本の総頁数は72頁となった。なお、この完成本は、今年度中に健学社より出版予定である。

（完成本の一部下記参照）

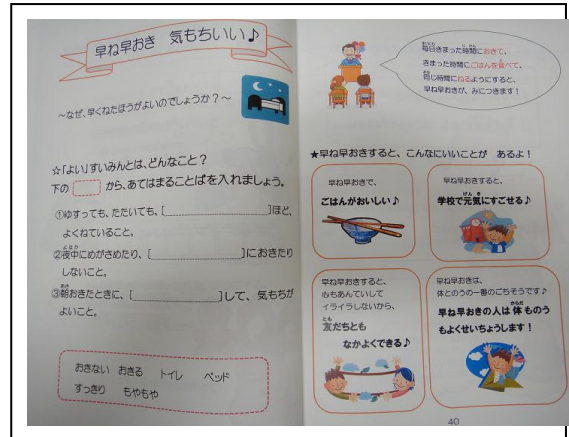
【完成本目次】

【完成本表紙】



「けんこうなせいかつ」	
＜目次＞	
● 1 巻 序	1
● 第 1 章	2
【きそく正しいせいかつ】	2
1. きそく	2
2. 生活リズム	7
3. 正しい姿勢	14
【しよくじ】	17
4. 食事の大切さ	17
5. 食事のルール	21
【歯のケア】	23
6. 歯を強く保つ	23
【うんどう・せいけつ】	25
7. うんどうの大切さ	25
【いのちのたいせつさ】	30
8. 命の大切さ	30
【あそび・たのしみ】	33
9. あそびの大切さ	33
● 2 巻 序	39
【きそく正しいせいかつ】	39
10. きそく	39
【あそび】	42
11. あそびの大切さ	42
12. あそびのルール	44
【あそびの大切さ】	48
13. あそびの大切さ	48
14. あそびのルール	50
【あそびの大切さ】	53
15. あそびの大切さ	53
【あそびの大切さ】	62
16. あそびの大切さ	62
【あそびの大切さ】	66
17. あそびの大切さ	66
● 3 巻 序	70
【あそびの大切さ】	70
● 4 巻 序	74
【あそびの大切さ】	74

【完成本内容例】



5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

①増山結・浜島京子、福島県の小学校における食育の実施状況について、東北家庭科教育研究、査読有、第9号、2010年、49-60

②浜島京子、「92年国民中小学九年一貫課程綱要」における新しい家政教育、日本家庭科教育学会誌、査読有、第54巻3号、2011年、143-154

〔学会発表〕（計2件）

①浜島京子、台湾の2003年版「課程綱要」における〔家政教育〕の内容及び考察、日本家庭科教育学会東北地区会平成22年度大会、2010年10月23日、弘前市立中央公民館

②浜島京子、東日本大震災への対応と生活・教育-福島県の事例より-、一般社団法人日本家政学会東北・北海道支部 第57回研究発表会、2012年9月14日、福島大学

〔図書〕（計1件）

①渡邊彩子監修、岡野雅子・甲斐純子・勝田映子・浜島京子他6名編集、新しい家庭5・6、東京書籍株式会社、2011年、全113頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

〈調査報告〉（計2件）

①浜島京子・齋藤和代・星俊子・遊佐早苗・富岡美穂・渡辺文江・大宮勇雄、福島大学附属幼稚園教職員による上海及び台北の幼稚園視察、福島大学総合教育研究センター紀要、第13号、2012年、55-64

②福島大学附属幼稚園（浜島京子・星俊子・遊佐早苗・佐藤久美子・富岡美穂他4名）、福島大学附属幼稚園における食育の取り組み、平成24年度学長裁量経費による福島大学附属幼稚園研究報告書、2013年、全111頁

〈提言〉（計2件）

①浜島京子、学力の基盤となる「子どもの生きる力」を育成する社会教育の役割、社会教育（福島県教育委員会）、No.332、2012年、4

②浜島京子、家庭科における今後の防災・安全教育を考えるうえで、東京書籍教室の窓、2012年秋号、2-3

〈招待講演・報道〉（計7件）

①浜島京子、有用間・存在感のある家庭科教育に向けて、福島県小学校教育研究協議会家庭科部会主催、2010年10月19日、ふれあいセンターなみえ

→平成22年度県小教研家庭科研究部会部会報第47号（2011.2.18）に掲載

②浜島京子、生活習慣、食生活等の生活を見直そう、東白川郡矢祭町立東館小学校（5・6年児童対象）、2010年2月2日

→夕刊矢祭（2010.2.2）に掲載

③浜島京子、家庭教育支援のための学校・家庭・地域の連携に向けて、福島県教育庁南会津教育事務所主催、2011年2月5日、南会津町「御蔵入交流館」

→福島民友新聞・福島民報新聞（2011.2.6）に掲載

④浜島京子、子どもの生活実態にみる家庭生活・家庭教育の課題、郡山市教育委員会主催、2011年9月21日、開成山野球場会議室

⑤浜島京子、子どもたちの生きる力の育成に向けて-家庭・学校・地域の課題-、福島県教育庁会津教育事務所主催、2011年11月26日、会津若松市北会津公民館

⑥浜島京子、子どもの生活をめぐる学校・家庭、教育の課題、浅川町教育協議会主催、2012年5月10日、浅川町吉田富三記念館

⑦浜島京子、子どもの生活をめぐる学校・家庭教育の問題、南会津郡只見町立明和小学校PTA主催、2012年12月6日、只見町立明和小学校

6. 研究組織

(1) 研究代表者

浜島 京子 (HAMAJIMA KYOKO)

福島大学・人間発達文化学類・教授

研究者番号：20125785